



終業式の朝の光景

12月23日、2学期の終業式を迎えました。この季節は、道路の落葉処理が大変なのですが、ここ最近野球部や生徒会を中心とした有志が落葉処理をしたり、挨拶運動をしたりしてくれています。終業式の朝は、野球部と女子バレー部の有志が、落ち葉処理をしてくれました。2学期最後の日に、学校のため地域のために行動してくれる心意気をありがたく嬉しく思います。

これまで携わってくれた有志の皆さん、本当にありがとうございます！



終業式での学年代表発表

終業式では、私から以下の話をしました。（一部省略）

前向きに取り組む皆さんの姿を、校長として嬉しく思う。合唱コンクールの練習、附中の伝統を実感した。コンクールでの校歌合唱は鳥肌。

自他の幸福について。「幸福な王子」というお話を知っているか。この話は、オスカーワイルドの作。小学生の時に読んだ絵本が印象に残り、中学校時代に調べた。ワイルドの言葉で私が大切にしている言葉。

The optimist sees the doughnut, the pessimist sees the hole.

「楽観主義者はドーナツを見て、悲観主義者はその穴を見る。」ないものを嘆くのではなく、あるものに目を向ける。自分はダメだと思ったり、他者の欠点を気にしたりするより、前向きな方がいい。

一つの事をどう見るかで、自他の幸福の在り方や人生が変わる。自他の幸福を実現するかしないかは、考え方一つ。今後は、言葉を言い換えて、

The optimist looks the doughnutとして、意識的にプラス思考で見ていこう！

また、各学年代表生徒が、前向きで素晴らしい発表をしてくれました。頼もしく思いながら聞きました。一部省略しながら紹介します。

【1年3組 新堀華菜】

二学期は、生徒会選挙や写生大会、合唱コンクール、探究発表会、人権集会、Englishウィーク、チャレラン大会など本当にたくさんの行事がありました。そこで、「写生大会」と「探究発表会」で頑張ったこと、日々の生活で頑張ったこと、来年頑張りたいこと、について発表します。

まず一つ目が10月9日に行われた「写生大会」についてです。

私は木々の青々とした風景が光に照らされていてとても綺麗だと思った場所で絵を描きました。色を塗る際には、授業で学んだ四つの技法「にじみ」「ぼかし」「吸い取り」「かすれ」を意識して使いました。ただ色を塗るのではなく、水の量や筆の動かし方を工夫することで、自然な雰囲気が出るように心がけ、より本物に近づけるために、一色だけで表現するのではなく、何色も色を重ねるようにしました。特に葉の部分は、緑だけでなく黄色や青、少し茶色を混ぜることで、深みのある色になるよう工夫しました。思うように描けないところもあったのですが最後まで自分の納得のいくよう書き続け、特賞に選ばれたので嬉しかったです。

次は12月10日に行われた「探究発表会」についてです。

私は“防災”をテーマにペアで探究を進めました。調べる際には本やインターネット、校外学習、アンケートなどを利用しました。情報はたくさん集めることができたのですが、調べた情報が本当に正しいのか吟味することや調べた内容を整理し、課題から考察がズレていないかなどを考えることが難しかったです。しかしひペアと協力して役割分担や相談をしながら進めることができたのでよかったです。探究発表会の当日は調べたことをしっかり具体的に、ジェスチャーをまじえながら発表することができたのでよかったです。

生活の中でも様々なことに取り組みました。出会った人に挨拶をする、周りをよく見る、周りの人に感謝する、無言で時間いっぱい掃除をする、手洗いうがいをする、3分前着席、2分前黙勉などです。

来年は中学二年生。新しい一年生を引っ張って一年生のお手本になる為に、

三学期は、周りの人に感謝するだけでなく感謝されるように、先輩に憧れるだけでなく学年関係なしに人に憧れられるように、努力していこうと思います。

【2年3組 藤野由希】

クラスにとっても私にとっても有意義な二学期となりました。特に印象に残った行事は修学旅行です。班決めから実際の修学旅行、振り返りまで全体を通してクラスの大きな成長に繋げられたと思います。お互いの意思がぶつかりあい、話し合いが円滑に進まなかった班決めも、現地では所属した生活班、行動班で楽しみながら、授業では学べない多くのことを学べた貴重な機会にすることができました。予定通りに行かなかった時の柔軟な対応、新たな一面を見せた友達と向き合うコミュニケーション能力が学べました。修学旅行の振り返りでは、学び、感じた気持ち、感想等を自分の言葉で表せるようになりました。特に私が印象に残ったのは京都の街並みでした。昔ながらのものを現代人の私たちも触れられて貴重な体験となりました。

後期の課活動、係決めではお互いの意思を伝え合って円滑に進めることができ、授業等でも多面的な思考を他人に伝えられるようになりました。英語のフィールドワークや、社会学年授業では、共通部分を見つけて合意部分が増やせる様になりました。修学旅行だけでなく、全ての行事が私たちにとって良い影響を与えてくれたと思います。

そんなクラスの雰囲気は、私自身の大きな原動力ともなりました。一学期の私は変化が苦手で、一度居場所を見つけたらそこから中々抜け出せませんでした。しかし、クラスの雰囲気や、探究発表会や100分日課など次々に新しいことを始めるこの学校に刺激を受け、このままで居たらこの学校での中学校生活が十分に満足できる物にならないかもしないと感じ、私の中で、変わりたいという気持ちが芽生えました。私が発言しても良いのか、もっと他の人がいるんじゃないかな、そう思ってしまった場面も多々ありました。でも私自身もこの熊大附中の一員だということを自覚し、自信を持って動くことが必要だと改めて感じました。

先程も言ったように、この学校はたくさんのチャンスで溢れかえっています。しかし、そのチャンスを掴むか否かは私たち生徒自身に託されています。変わらざるを得ない、現状で満足してはいけない、今学期はそんな大

事なことに気づく学期になりました。変わらざる勇気はその人自身にも成長を与え、それを見た第三者にも原動力を与える幸運の連鎖を起こすことができるのではないかでしょうか。次の学期、もっと成長した自分でいられるためにも、さらに沢山の努力を積み重ねていきたいです。

【3年3組 辻悠生】

二学期には、チャレンジランニング大会、写生大会、合唱コンクールなど、たくさんの行事がありました。特に三年生にとっては、どれもが最後の行事で、特別な思いをもって取り組んだ方が多かったと思います。

私は、今年から変更になったチャレンジランニング大会が特に記憶に残っています。いつもとは違う江津湖という場所で、男子は5.5キロメートル、女子は4キロメートルという長い距離を、みんなで走りました。きつい気持ちと闘いながらもがんばりながらもしっかり走り切り、終わった後には清々しい気持ちになり、今まで練習てきて良かったな、と思いました。みなさんも、最後まで走り切りました。最後まで諦めない姿は、本当に感動的だったと思います。

突然ですが、皆さん、日頃から「挑戦」をしていますか。何かに向かって前向きに挑戦している人もいれば、不安や失敗への恐れから、一歩踏み出せずにいる人もいると思います。実は、私もそのうちの一人でした。

しかし、挑戦することから逃げ続けていて、本当にいいのでしょうか。今は後悔しなくとも、いつか「あのとき挑戦していればよかった」と思う日が来るかもしれません。だからこそ、小さなことからでもいいので、挑戦してほしいと思います。

私自身も、合唱コンクールで指揮者に挑戦しました。これまでの人生で、指揮とはまったく縁がなく、正直に言うと、他のクラスの指揮者と比べて上手だったとは言えませんでした。それでも、クラスのみんなと一生懸命練習し、みんなが支えてくれたおかげで、学年優勝とグランプリを取ることができました。指揮者賞を取ることはできませんでしたが、今では挑戦して本当によかったと思える、大切な思い出になっています。

皆さん、人生に二回目はありません。たとえ失敗したとしても、その経験は必ず自分にとって価値のあるものになるはずです。だからこそ、後悔のないように、自分なりの一歩を踏み出し、さまざまなことに挑戦してみてください。

令和7年もお世話になりました。皆さん、良いお年をお迎えください。